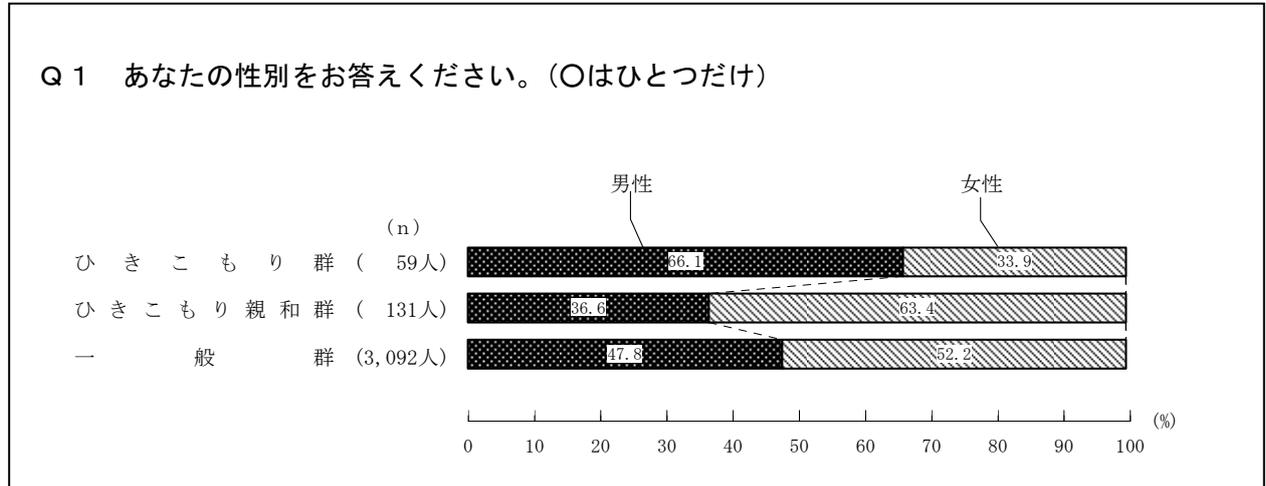


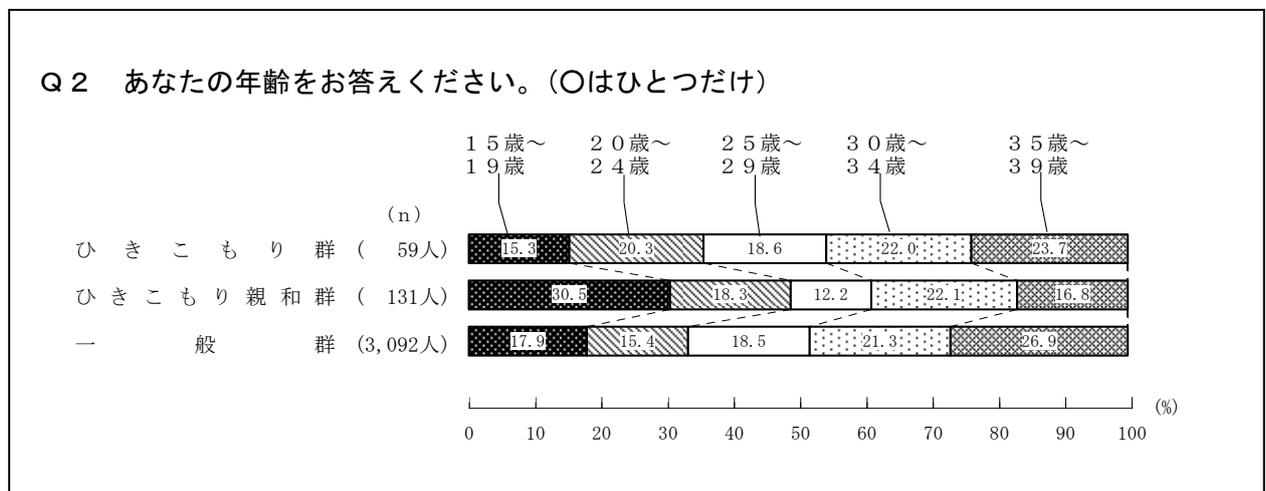
Ⅲ 調査の結果（抄）（松井豊、渡部麻美）

1 性別



回答者の性別は、ひきこもり群は男性が多く、ひきこもり親和群は女性が多い傾向が見られた。

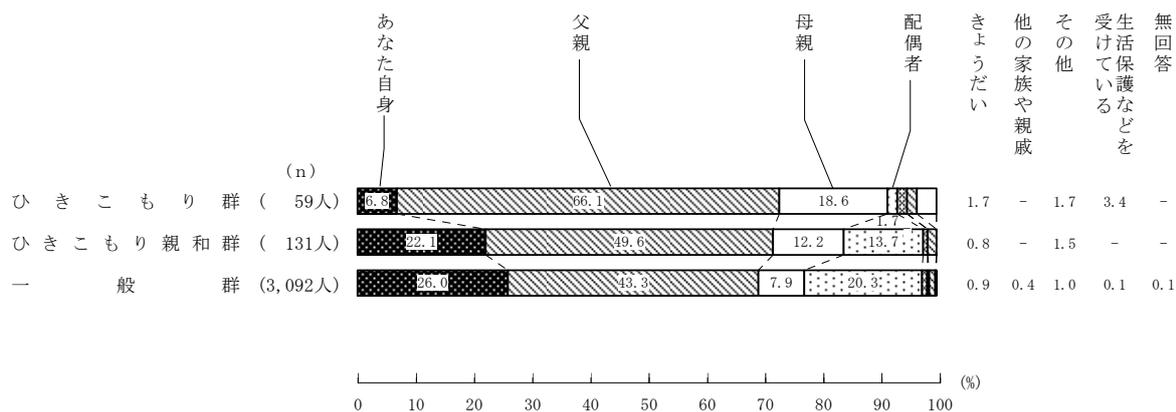
2 年齢



回答者の年齢は、ひきこもり親和群は10代を中心とした若い年齢層に多い傾向が見られた。

3 主生計者

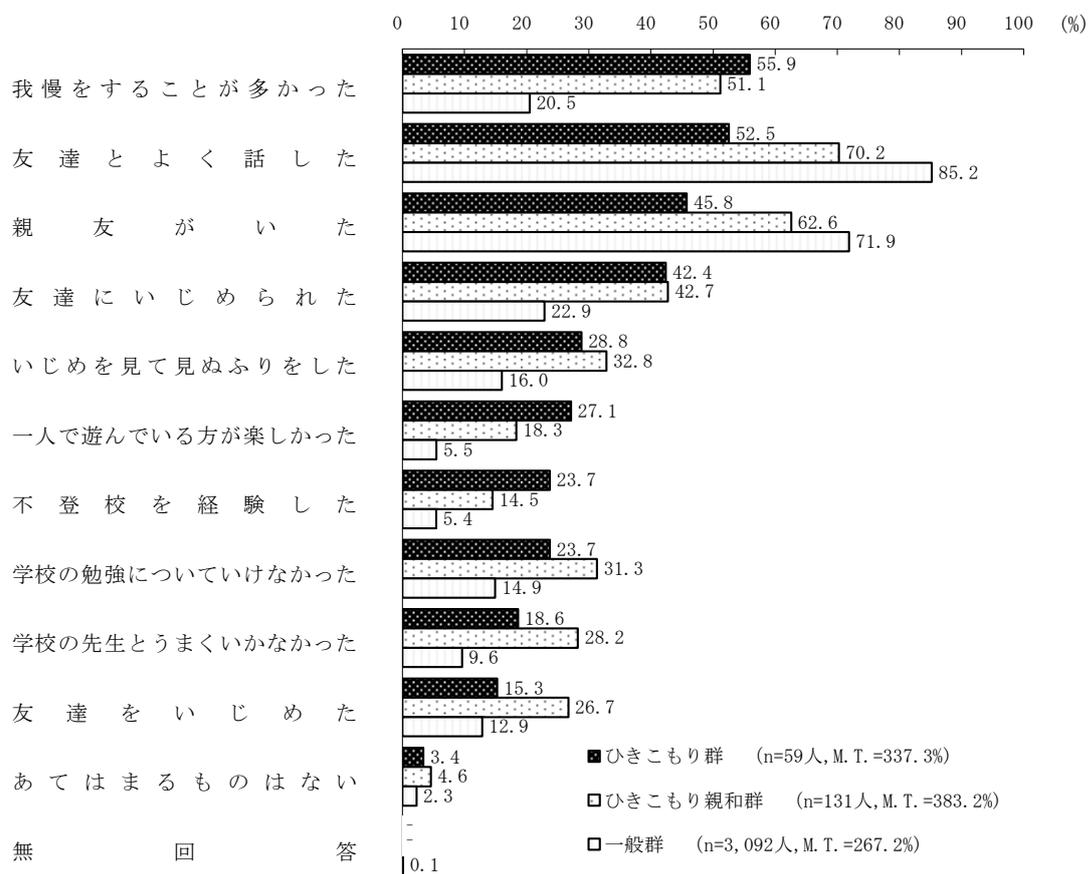
Q5 あなたの家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(〇はひとつだけ)



主な生計維持者を聞いたところ、ひきこもり群の世帯の大部分は両親のいずれかが生計を立てており、本人が生計を担っていることは少ない。しかし、本人が生計を立てている世帯や生活保護を受けている世帯も見られ、ひきこもりのすべてが生活を親に頼っているとはいえない。

4 小中学校時代の学校での経験

Q 1 1 あなたは小学校や中学校の頃に、学校で次のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

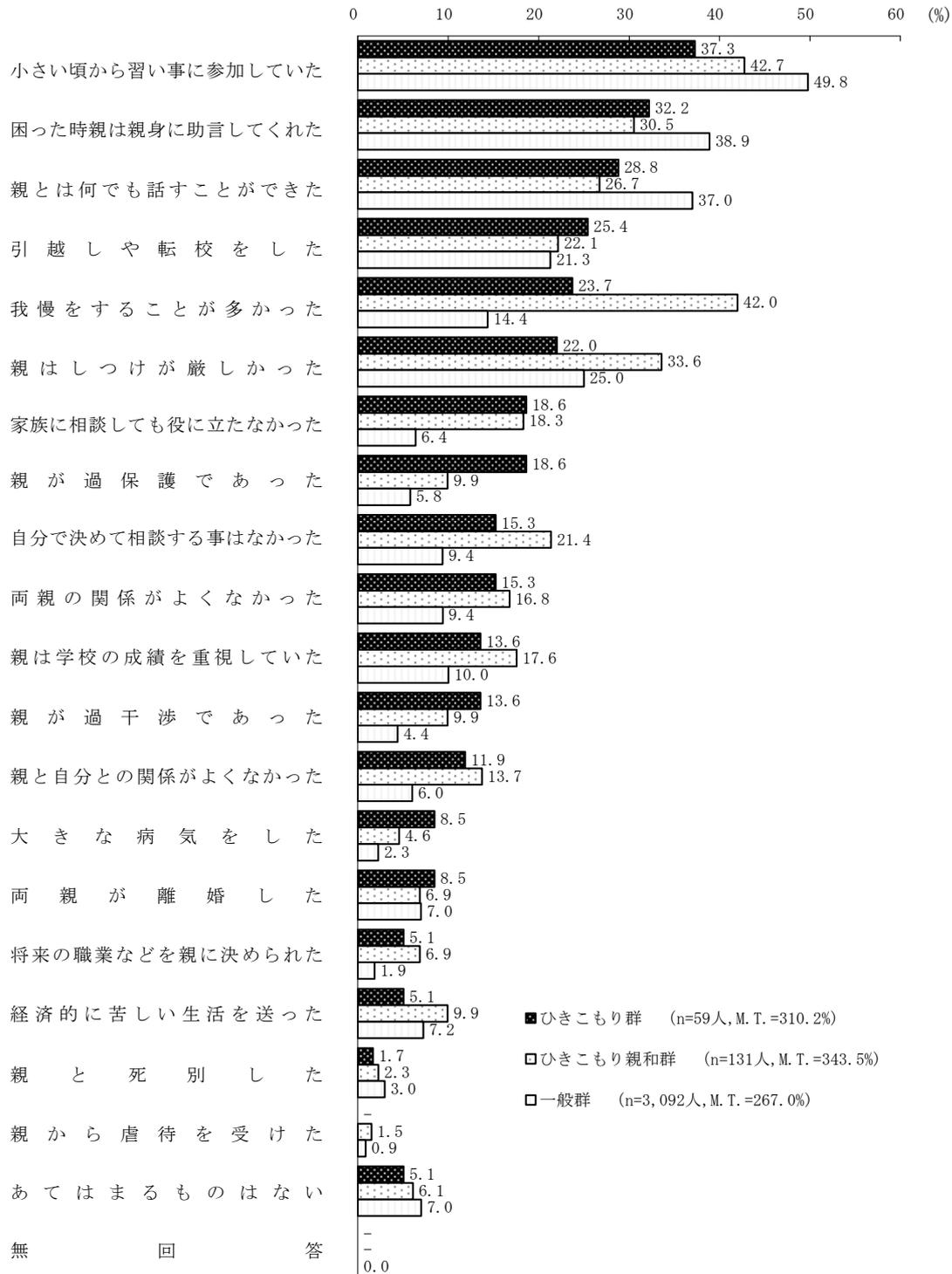


小学校や中学校の頃に学校で経験したことについて聞いたところ、ひきこもり群とひきこもり親和群は、一般群と比較した場合、学校生活において「我慢をすることが多かった」、「友達にいじめられた」、「いじめを見て見ぬふりをした」、「一人で遊んでいる方が楽しかった」、「学校の先生とうまくいかなかった」が多かった。さらに、ひきこもり群とひきこもり親和群は、「友達とよく話した」や「親友がいた」が一般群よりも少なかった。また、ひきこもり群とひきこもり親和群は、「不登校を経験した」も多く、学校生活になじめなかった者が多いと考えられる。

さらに、ひきこもり親和群では、「学校の勉強についていけなかった」や「友達をいじめた」も多かった。

5 小中学校時代の家庭での経験

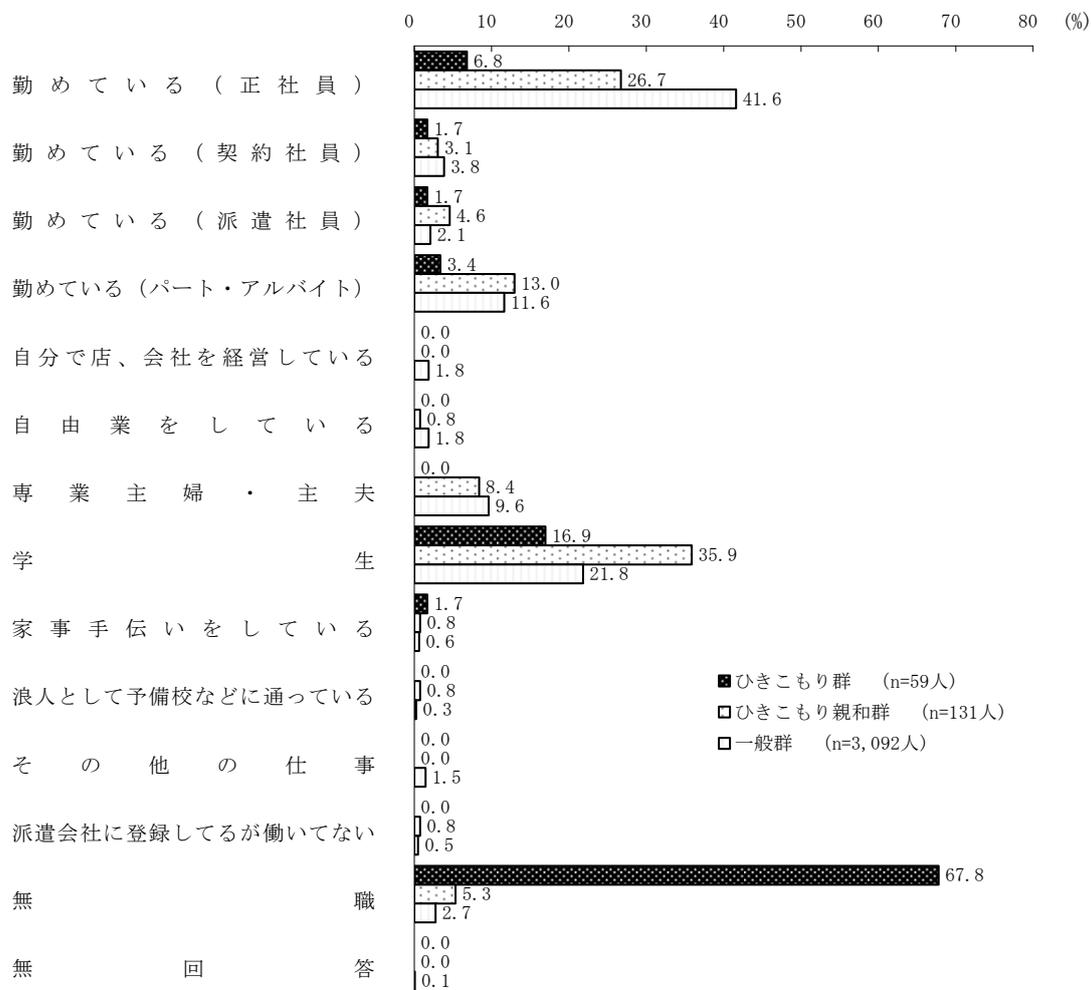
Q12 あなたは小学校や中学校の頃に、家庭で次のようなことを経験したことがありますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



小学校や中学校の頃に、家庭での経験を聞いたところ、ひきこもり群は、ひきこもり親和群や一般群に比べて、「親が過保護であった」や「大きな病気をした」が多かった。ひきこもり親和群は「我慢をすることが多かった」、「自分で決めて相談することはなかった」、「両親の関係がよくなかった」、「親は学校の成績を重視していた」、「親と自分の関係がよくなかった」、「将来の職業などを親に決められた」が多く、「親とは何でも話すことができた」が少なかった。ひきこもり群、ひきこもり親和群ともに、「家族に相談しても役に立たなかった」や「親が過干渉であった」が一般群よりも多かった。

6 現在の就業状況

Q 13 あなたは現在働いておられますか。(○はひとつだけ)

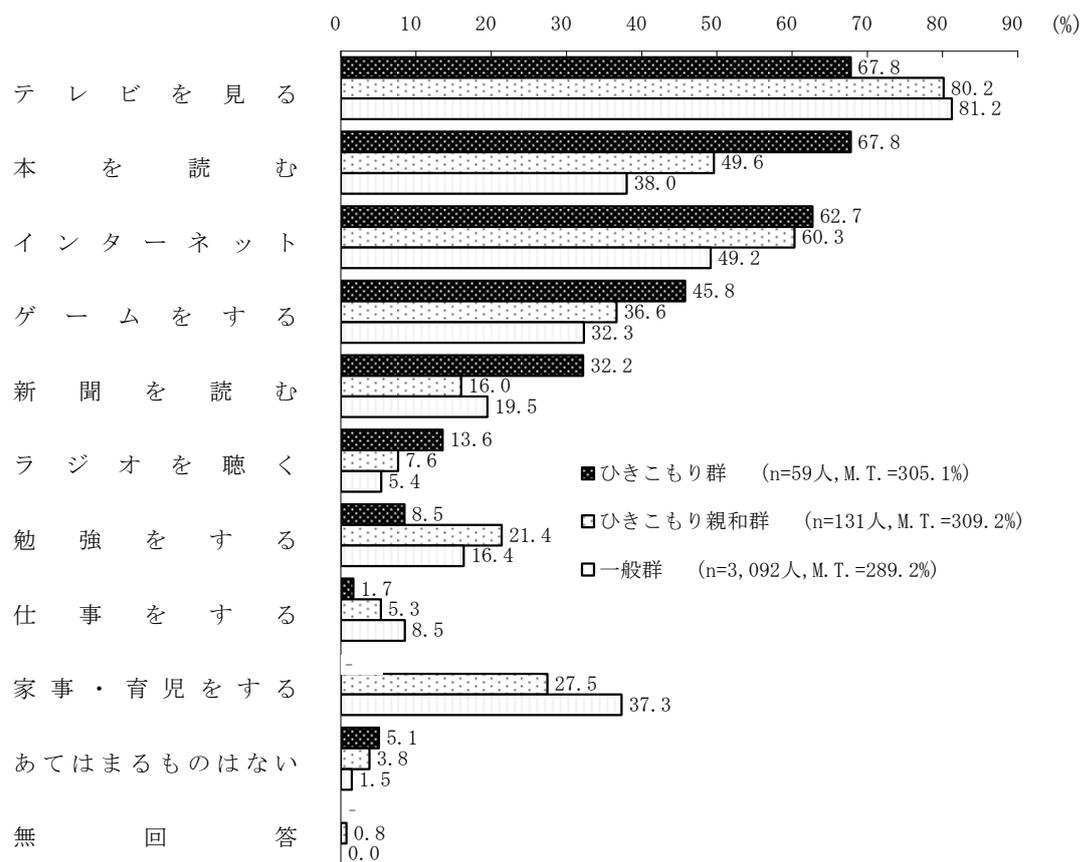


現在の就業状況を聞いたところ、ひきこもり群は「無職」が中心となっており、ひきこもり親和群は「学生」が多かった。

なお、ひきこもり群でありながら「勤めている (正社員)」というのは、例えば長期休職中などが想定される。

7 ふだん自宅をよくしていること

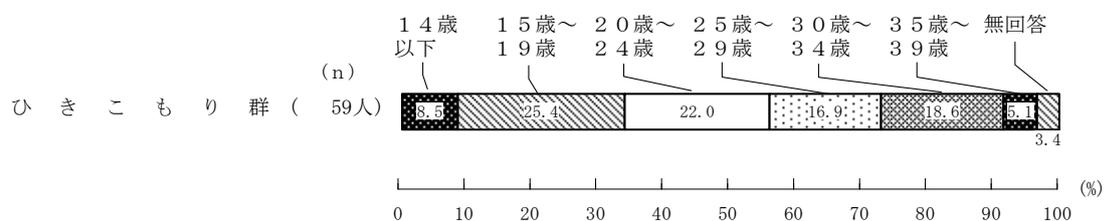
Q18 ふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)



ふだん自宅にいるときによくしていることを聞いたところ、3群を比較するとひきこもり群とひきこもり親和群は、「本を読む」や「インターネット」、「あてはまるものがない」が多く、「家事・育児をする」が少なかった。また、ひきこもり群は、「ラジオを聴く」や「新聞を読む」が多く、「テレビを見る」は比較的少なかった。

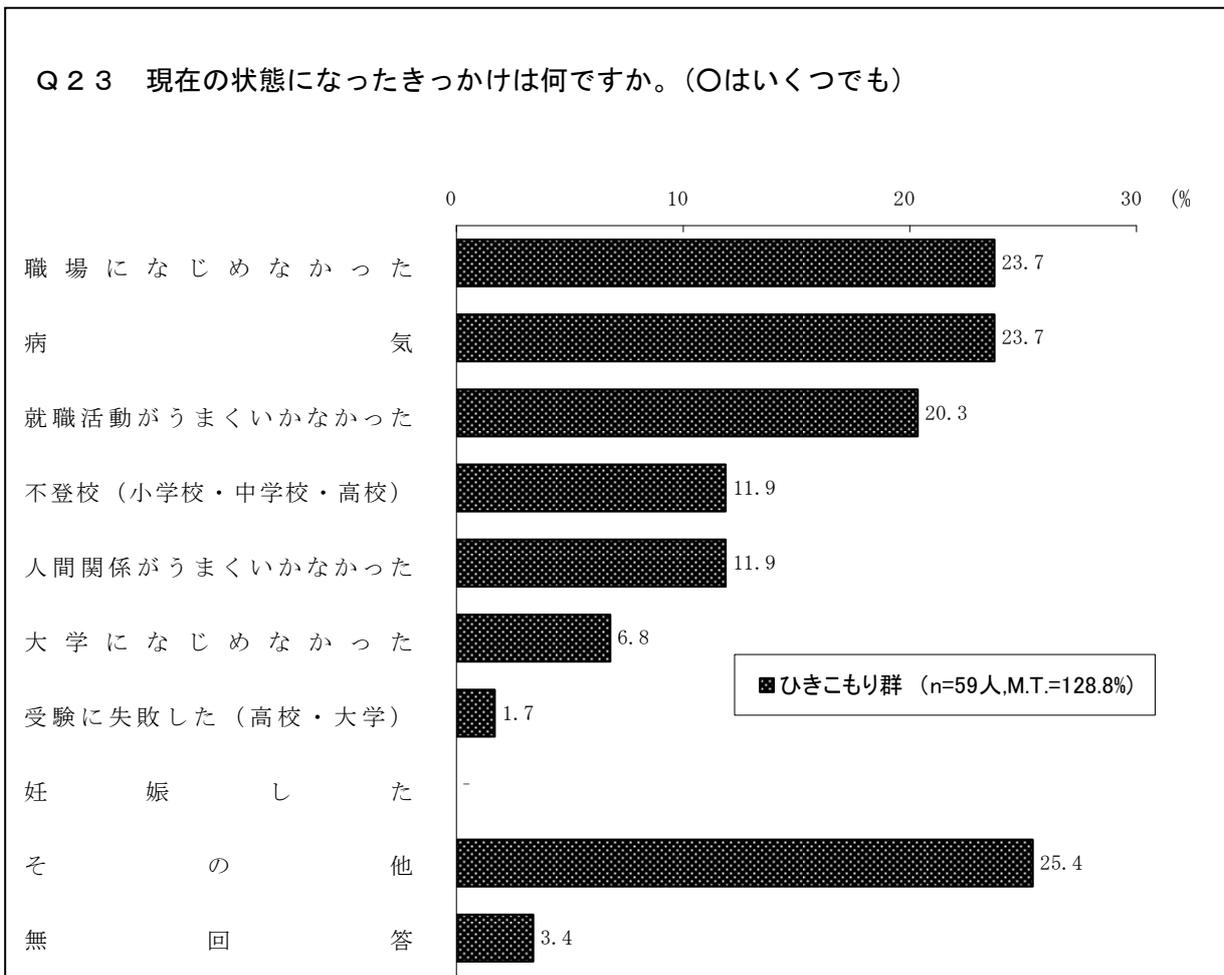
8 ひきこもりの状態になった年齢

Q 2 1 現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)



「14歳以下」(8.5%)及び「15歳～19歳」(25.4%)を合わせると33.9%となり、3割強の者が10代のうちにひきこもりの状態になっていた。一方、「30歳～34歳」(18.6%)及び「35歳～39歳」(5.1%)を合わせると、30代でひきこもり始めた者も23.7%いることが明らかとなった。

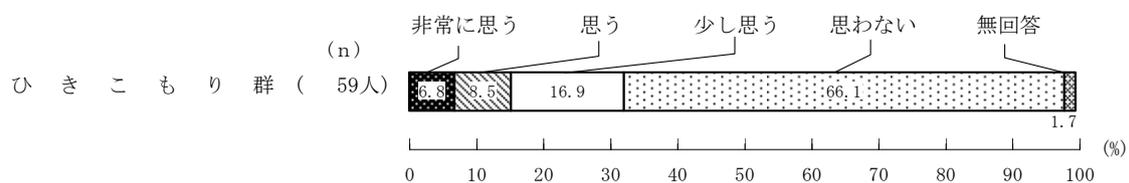
9 現在の状態になったきっかけ



現在の状態になったきっかけを聞いたところ、「職場になじめなかった」(23.7%)と「就職活動がうまくいかなかった」(20.3%)を合わせると44.0%となり、仕事や就職に関するきっかけによってひきこもった者が多かった。「不登校(小学校・中学校・高校)」(11.9%)や「大学になじめなかった」(6.8%)は、合計しても18.7%にとどまっていた。

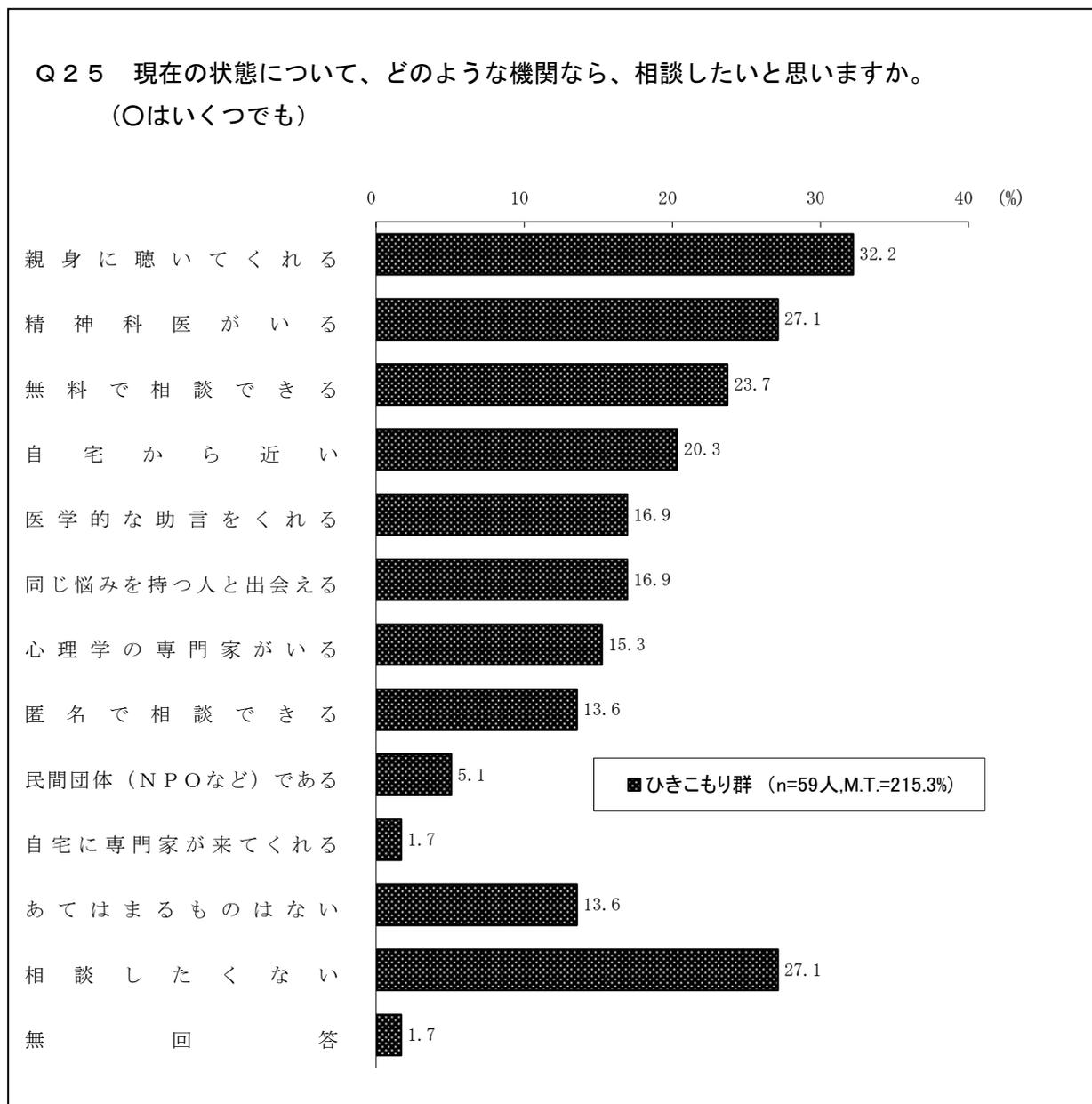
10 現在の状態について関係機関に相談したいか

Q24 現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。(○はひとつだけ)



現在の状態について、関係機関に相談したいか聞いたところ、「思わない」を選択した者が66.1%と最も多く、ひきこもり群では関係機関への相談を避ける傾向があった。

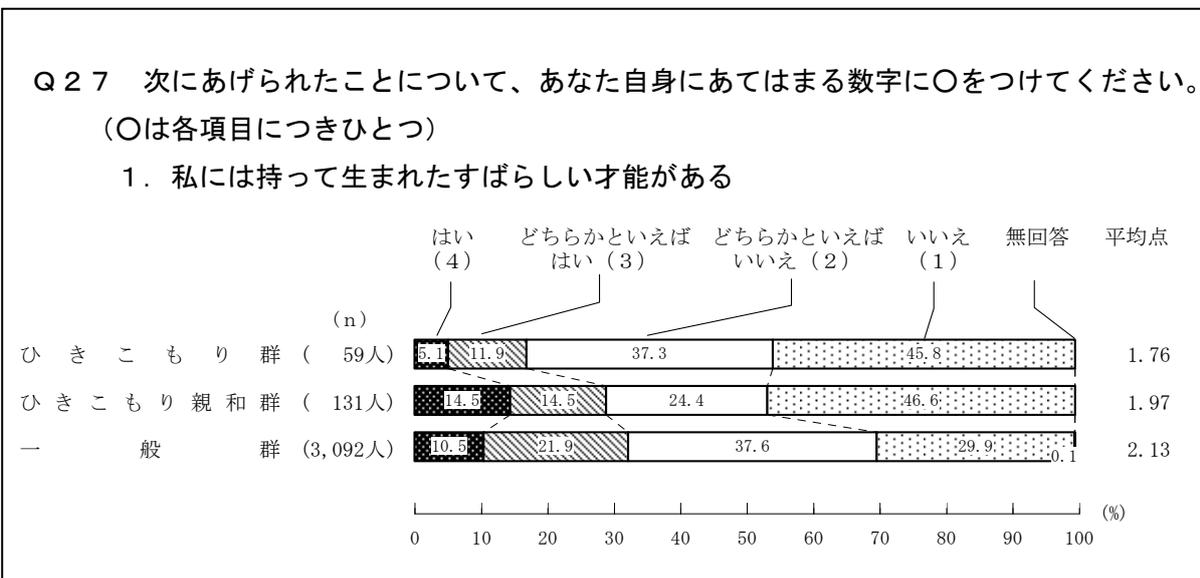
1 1 現在の状態をどの機関なら相談したいか



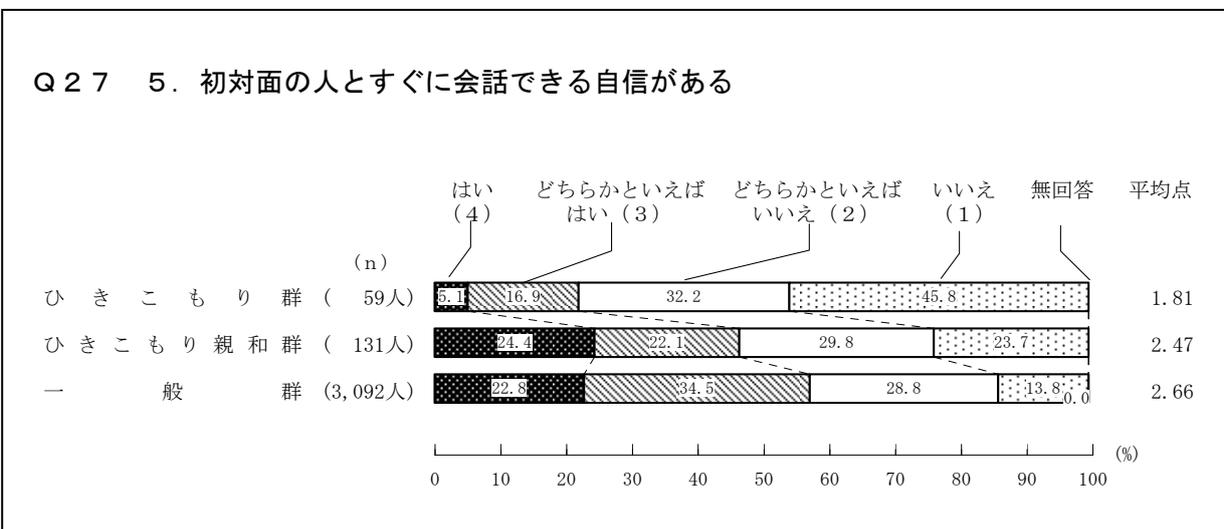
ひきこもり群の者は、自分の話を「親身に聴いてくれる」相談機関を最も求めている（32.2%）ことが明らかとなった。その一方で、「相談したくない」も27.1%と多く、相談機関の条件に関わらず相談を避ける者も存在することが示された。

1 2 自身にあてはまること

あなた自身にあてはまるかどうか14項目について聞いた。

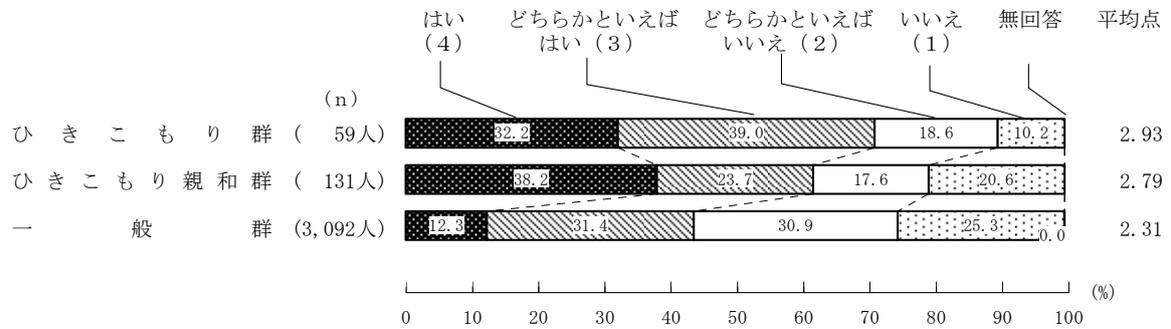


『私には持って生まれたすばらしい才能がある』について聞いたところ、ひきこもり群は、一般群と比べて自分の持って生まれた素質についての自信が低い傾向があった。



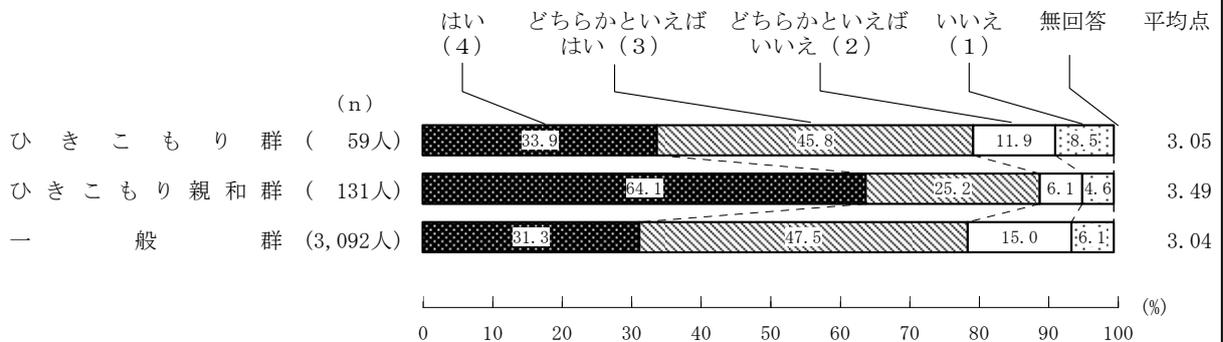
『初対面の人とすぐに会話できる自信がある』について聞いたところ、ひきこもり群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて、初対面の人との関わり方に自信がない傾向があった。

Q 27 7. 自分の感情を表に出すのが苦手だ



『自分の感情を表に出すのが苦手だ』について聞いたところ、ひきこもり群とひきこもり親和群は、一般群と比べて、自己表現が苦手であると感じていた。

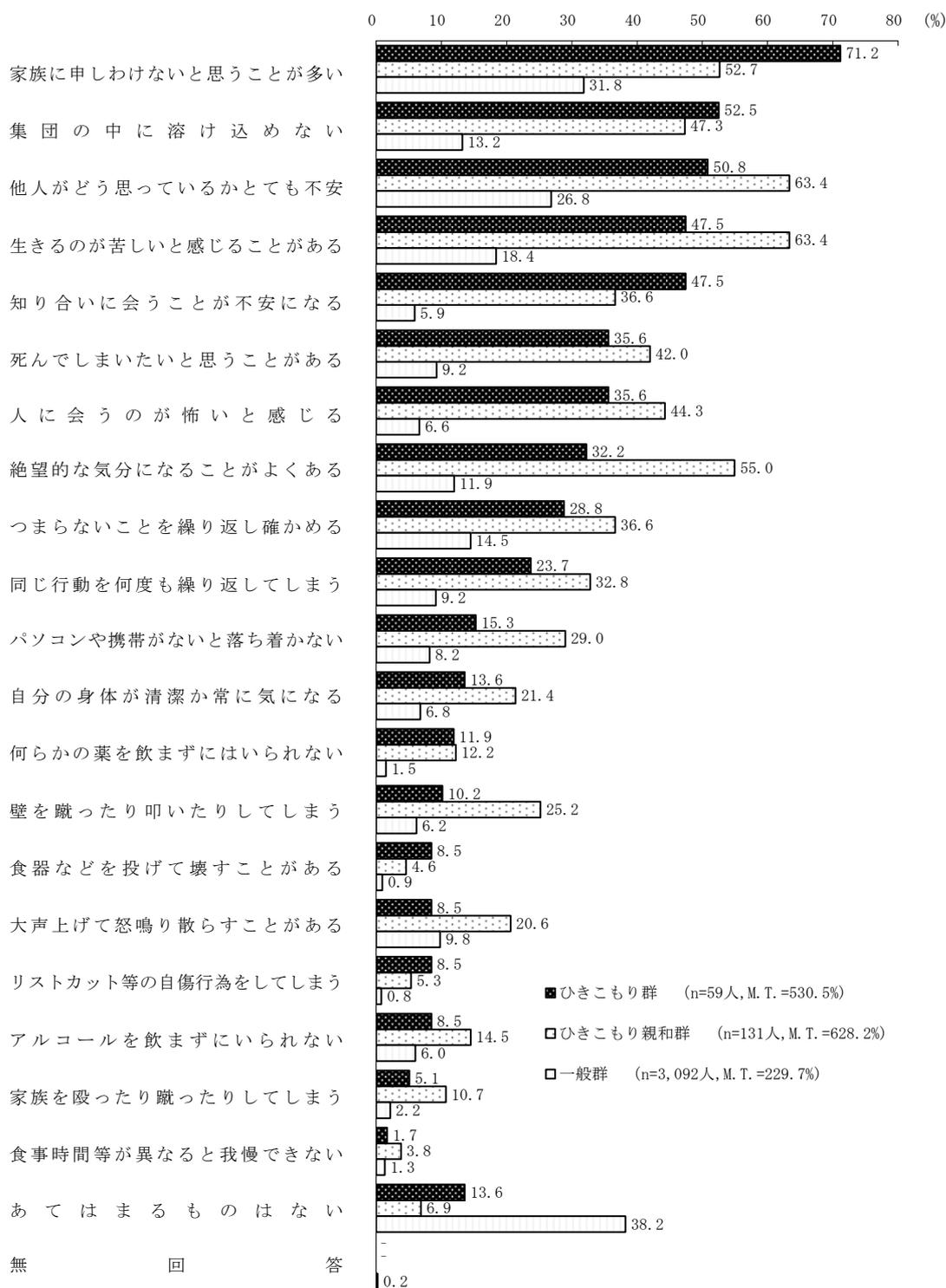
Q 27 10. 自分の生活のことで人から干渉されたくない



『自分の生活のことで人から干渉されたくない』について聞いたところ、ひきこもり親和群は、ひきこもり群や一般群と比べて、自分の生活の仕方に他者が干渉することを嫌う傾向があった。

1.3 不安要素についてあてはまること

Q28 次にあげられたことの中で、あなた自身にあてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



不安などの項目であてはまるものを聞いたところ、ひきこもり群では、「家族に申し訳ないと思うことが多い」をあげた者が71.2%と最も多く、以下、「集団の中に溶け込めない」(52.5%)、「他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる」(50.8%)、「生きるのが苦しいと感ずることがある」「知り合いに会うことを考えると不安になる」(47.5%)となっていた。

ひきこもり親和群では、「他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる」(63.9%)、「生きるのが苦しいと感ずることがある」(63.4%)をあげる者が多く、次いで「絶望的な気分になることがよくある」(55.0%)、「家族に申し訳ないと思うことが多い」(51.6%)となっていた。

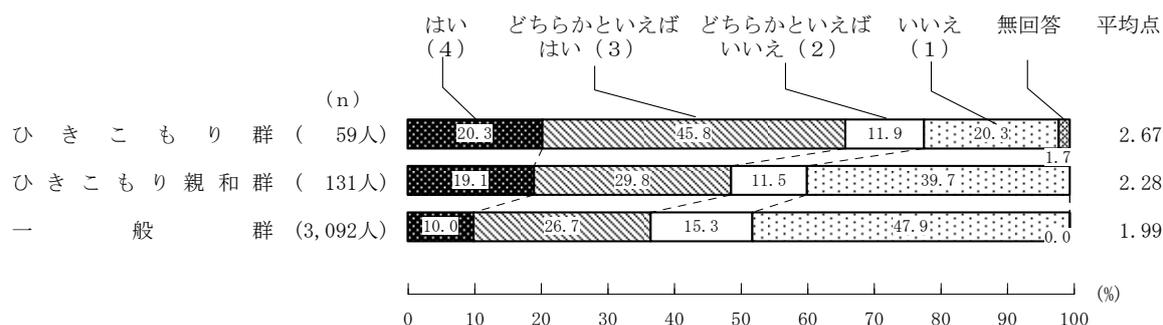
一般群では「あてはまるものはない」が最も多く(38.2%)、『ひきこもり群』、『ひきこもり親和群』と比べ、不安なことをあげる者が少なくなっていた。

14 ふだんの生活態度

あなた自身にあてはまるかどうか12項目について聞いた。

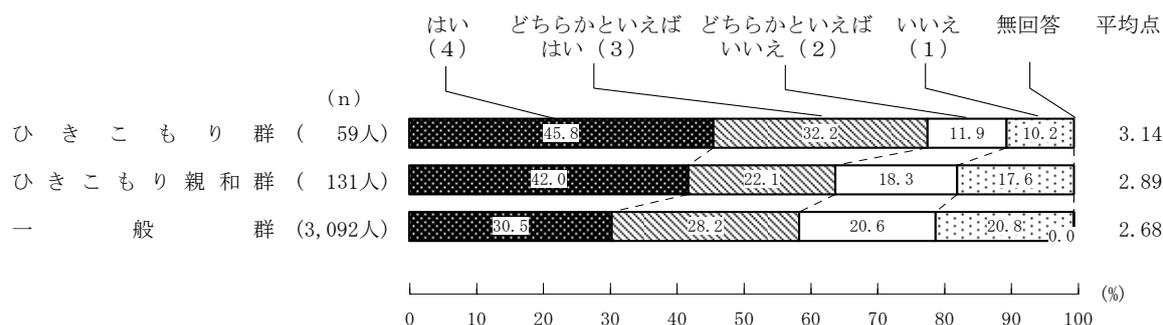
Q29 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまる数字に○をつけてください。
(○は各項目につきひとつ)

1. 身の回りのことは親にしてもらっている



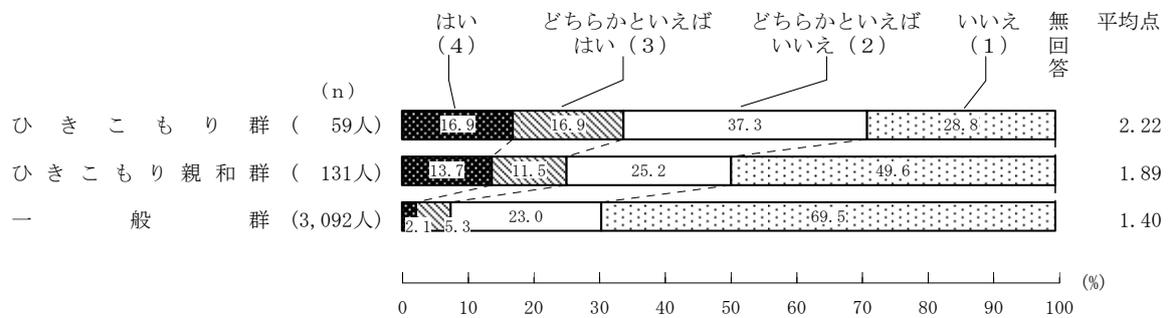
『身の回りのことは親にしてもらっている』について聞いたところ、ひきこもり群とひきこもり親和群は、一般群と比較して、身の回りのことを親に頼る傾向が高かった。

Q29 4. 深夜まで起きていることが多い



『深夜まで起きていることが多い』について聞いたところ、ひきこもり群は、一般群に比べて、深夜まで起きていることが多かった。

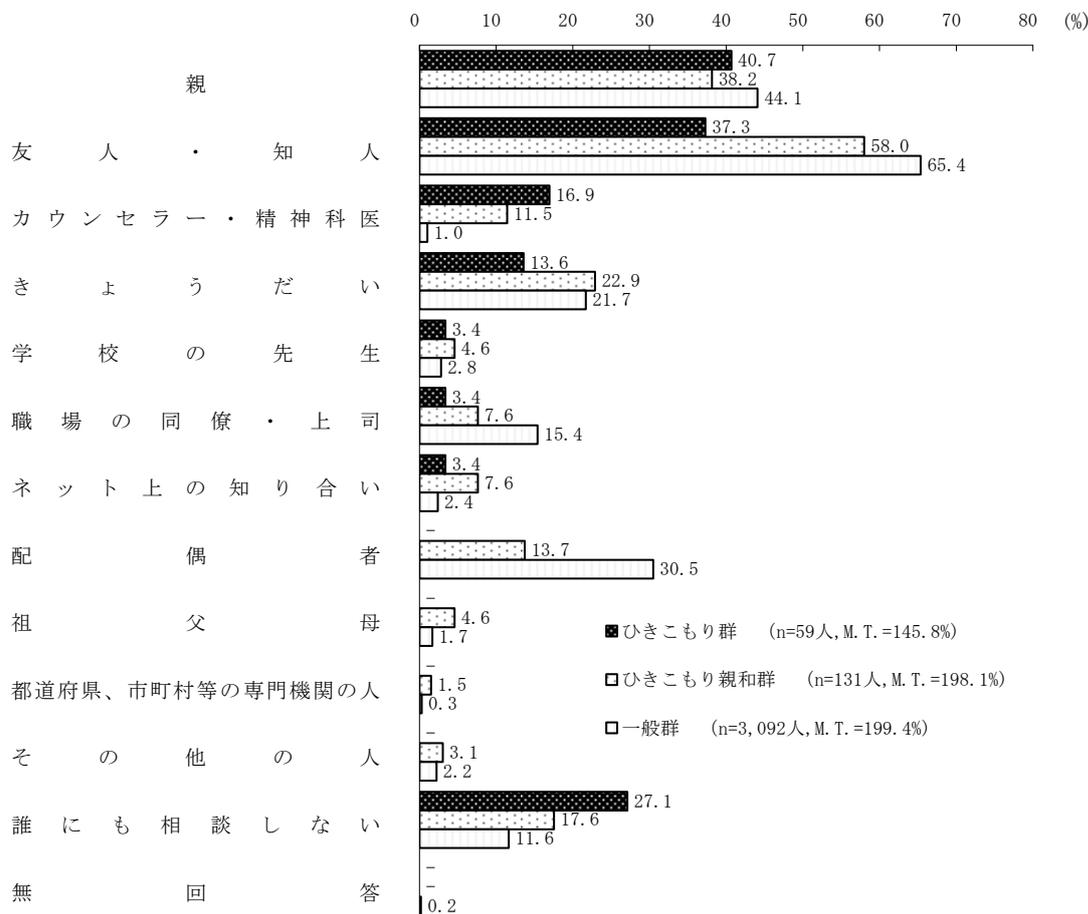
Q29 10. 過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない



『過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない』について聞いたところ、ひきこもり群は、知り合いを信頼できないと感じる傾向が3群の中で最も高く、次いでひきこもり親和群が高くなっていた。

15 悩みを相談する相手

Q32 あなたはふだん悩み事を誰に相談しますか。(〇はいくつでも)



悩みを相談する相手について聞いたところ、ひきこもり群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて、「友人・知人」(37.3%)が少なく、「誰にも相談しない」(27.1%)が多かった。ひきこもり親和群は、他の2群よりも「ネット上の知り合い」(7.6%)や「祖父母」(4.6%)が多かった。また、ひきこもり群、ひきこもり親和群ともに、一般群よりも「配偶者」(ひきこもり群0.0%、ひきこもり親和群13.7%)、「職場の同僚・上司」(ひきこもり群3.4%、ひきこもり親和群7.6%)が少なく、「カウンセラー・精神科医」(ひきこもり群16.9%、ひきこもり親和群11.5%)を相談相手とすることが多かった。

16 対人関係と精神症状に関する変数の分析（対人関係の苦手意識）

ひきこもり群、ひきこもり親和群、一般群の対人関係や精神症状について比較するために、対人関係の苦手意識、うつ・罪悪感、対人恐怖、強迫、暴力、依存、家族との情緒的絆について以下の分析を実施した。

Q27の項目のうち、下に示した4項目の合計点を「対人関係の苦手意識」得点とした（調査実施の際の選択肢は、「1. はい」「2. どちらかといえばはい」「3. どちらかといえばいいえ」「4. いいえ」であったが、得点が高いほど「対人関係の苦手意識」が高いことを示すように、「1. はい」は4点といった逆転処理を行なった上で合計した（逆転項目については質問の意味が逆転しているため、「1. はい」は1点といった処理を行った上で合計した。）。可能な得点範囲は4点から16点である。

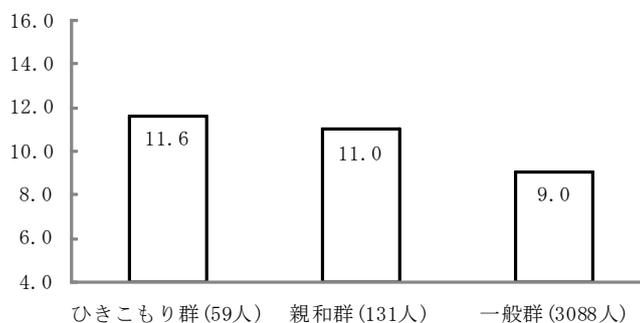
対人関係の苦手意識

「Q27 5. 初対面の人とすぐに会話できる自信がある（逆転項目）」

「Q27 6. 人づきあいが不器用なのではないかと悩む」

「Q27 7. 自分の感情を表に出すのが苦手だ」

「Q27 8. 周りの人ともめごとが起こったとき解決方法がわからない」



3群の「対人関係の苦手意識」得点を比較したところ、ひきこもり群（11.6）とひきこもり親和群（11.0）は、一般群（9.0）と比較して対人関係の苦手意識が高いことが明らかとなった。